

水田の大区画化と集積で米生産費の低減と作付面積の拡大が可能に

背景

- 大規模化に伴う圃場分散の解消や作業効率の向上に向けて、圃場基盤整備（水田の大区画化と集積）が進展しています。
- 圃場基盤整備に要する費用を上回る経済効果があるのか、検証が必要です。

「圃場基盤整備」の実施例

【実施前】



【実施後】



大型農機具の
利用が可能に！



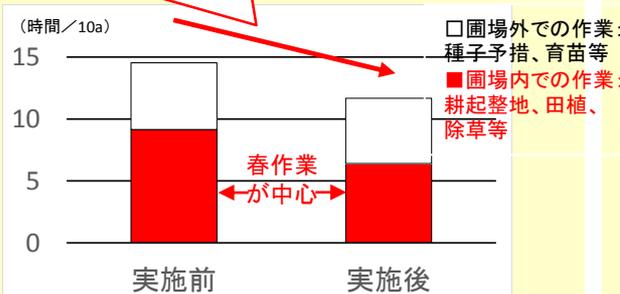
- 圃場1枚当たり平均面積：
0.3ha→**2.2ha**へ拡大！
- 1戸当たり団地数：
8団地→**3団地**へ集積！

圃場基盤整備の実施前後に着目し、実態調査および「経営モデル」の策定により経済効果を検証！

成果

①米生産の省力化効果

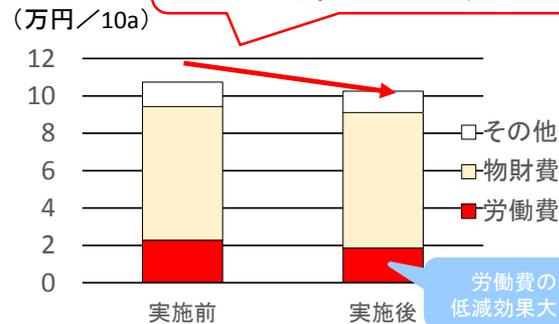
投下労働時間：10a当たり3時間短縮！
春作業の省力化→水稲作付面積の拡大！



圃場内作業の省力化が可能に！

②米生産費の低減効果

全算入生産費*：
10a当たり約5千円の低減！

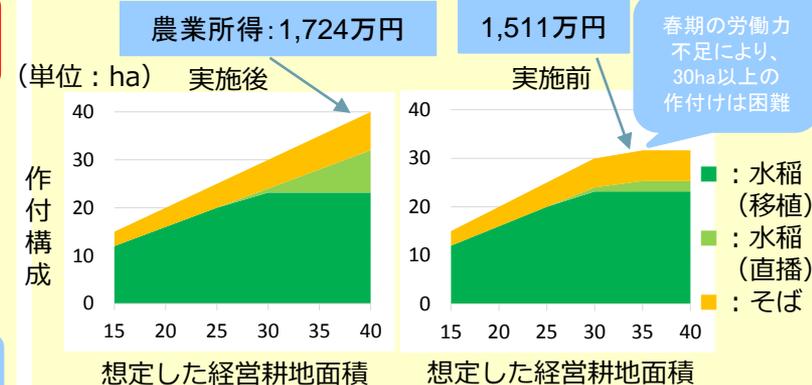


労働費の
低減効果大！

*「全算入生産費」：作物の生産に供する物財、労働、土地、資本の全てを価額評価したもので、実際に現金支出を伴わない家族労働費、自作地地代、自己資本利子といった見積額を含む。

米生産費の低減が可能に！

③水稲作付面積の拡大と所得の増加効果



春期の労働力不足により、30ha以上の作付けは困難

【経営モデル分析の前提】

- ・基幹労働力：3名、オペレータ：2名、「転作率」：20%（水稲単一経営）
- ・選択可能な作物：水稲（移植、直播栽培）、そば、秋播き小麦、地力作物

- ・40haへの作付拡大と所得の増加が可能に！
- ・費用対効果分析でも投資の妥当性を確認！

期待される効果

➡ 以上から、圃場基盤整備に要する費用を上回る経済効果が期待されます！

○ 説明された各種の効果は、稲作経営の大規模化と圃場基盤整備の促進に活用されます。